

5節 南アメリカ州



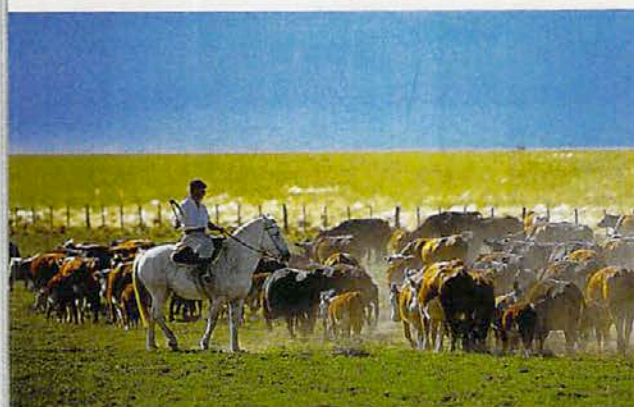
①南アメリカ州の位置

②アンデス山脈にあるインカ帝国の遺跡マチュピチュ(ペルー, 2009年撮影)



③サッカーのブラジル代表チーム(2009年撮影)
イギリスで生まれたサッカーは、ブラジルやアルゼンチンなど南アメリカでも人気のスポーツとなっています。

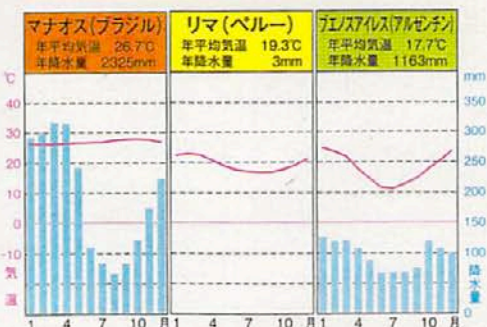
④南アメリカ州の自然



⑤パンパでの牛の放牧のようす(アルゼンチン)

どのような自然環境で行われているのか、考えてみましょう。

⑥南アメリカ州のおもな都市の雨温図(理科年表 平成23年, ほか)





⑦空から見たアマゾン川(ブラジル、2004年撮影)

川の曲がり方に着目しましょう。



⑧アマゾン川流域の家屋(ブラジル、2009年撮影) 雨季には川の水量が増えるため、家は高床になっています。手前には、ふだんの買い物などに利用するボートが見えます。

見わたすかぎりの森林だけど、どのくらいの大かさなのかな。



1 南アメリカの多様な自然環境

長大な山脈と大河川がはしる地形

南アメリカ大陸は、日本からみて、ちょうど地球の反対側にあたります。

南北に長い大陸の太平洋側にはアンデス山脈の高い山々がつらなり、東部にはなだらかなギアナ高地やブラジル高原が広がっています。アマゾン川やラプラタ川などの大河川の流域には、盆地や平野がひらけています。とくに、アマゾン川は南アメリカ大陸で最も長い河川で、赤道の近くを西から東に流れており、その流域面積は世界最大となっています。



南アメリカの自然環境のようすを、大きな川や山脈の位置に着目して見ていきましょう。

広大な範囲に広がる熱帯林

南アメリカ大陸には、熱帯から寒帯までのさまざまな気候がみられます。熱帯は、

アマゾン川流域を中心に広大な範囲に広がっています。ここには、数多くの動植物が生息している熱帯林が広がっています。ラプラタ川の中・下流域やチリの南部には温帯がみられます。とくに、ラプラタ川下流域にはパンパとよばれる草原が広がっており、小麦やとうもろこしの栽培、牛の放牧がさかんです。チリの太平洋岸やアルゼンチンの南部には乾燥帯が分布します。大陸の南端は寒帯で、氷河がみられる地域もあります。

→参照 p.30～32
高地のくらし

チェック&トライ

- ✓ 南アメリカの熱帯林の広がりを、地図帳で確認してみましょう。
- ✓ アンデス山脈では高地に人がくらしていましたが、そのほかの地域ではどこに人口が集まっているか、調べてみましょう。



① リオデジャネイロのカーニバル（ブラジル、2003年撮影）カーニバルはヨーロッパの宗教行事が起源ですが、現在では観光行事として定着しています。人種や民族を問わず、多くの人々が祭りを楽しみます。



② サンバの音楽の練習風景（ブラジル）

カーニバルで楽器を演奏する人の話

きらびやかな衣装をまとった人々が、サンバのリズムに合わせて元気におどる姿を見ようと、世界中から多くの人がやってくるんだよ。サンバで使う打楽器は、アフリカに起源をもつものだよ。



なぜアフリカ起源の楽器が使われているのだろう。



なぜ南アメリカの国々ではヨーロッパやアフリカの文化がみられるのか、歴史に注目してみよう。

■ メキシコから南の国々では、言語や宗教などにスペインやポルトガルなどラテン系民族としての共通性があるため、ラテンアメリカともよばれています。

2 南アメリカの歴史と文化

南アメリカの成り立ち

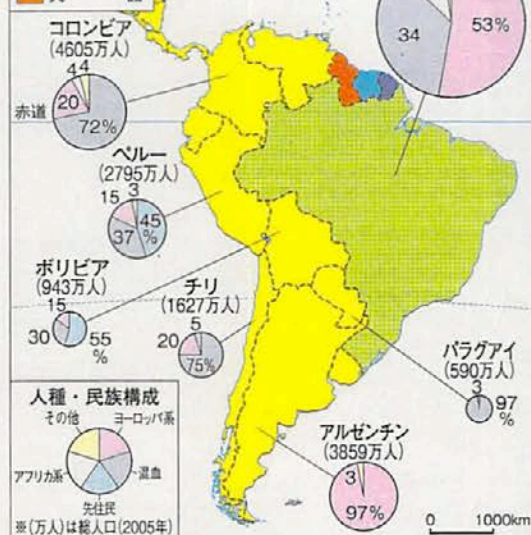
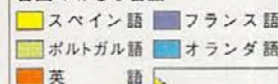
南アメリカ大陸には、アンデス地方のインカに代表されるように、先住民がつくった

高度な文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペイン人、ポルトガル人などヨーロッパの人々がやってくるようになりました。スペイン人はおもにアンデス地方に進出し、先住民の文明をほろぼして植民地をつくりました。一方ポルトガル人は、南アメリカ大陸の東部を植民地として、広大な土地を開拓しました。

南アメリカの国々は、19世紀初めにあいついで独立しました。しかし現在でも、多くの国でスペイン語やポルトガル語が使われ、キリスト教のカトリックが信仰されるなど、南アメリカにはヨーロッパの文化が強く残っています。

南アメリカには、先住民のほか、ヨーロッパ系、アフリカ系、アジア系などさまざまな人種や民族がくらしています。アフリカ系の人々は、植民地時代に農場や鉱山の労働力として強制的につれてこられました。20世紀にはいると、日本

各国のおもな言語



③ 南アメリカのおもな言語と人種・民族構成(世界年鑑 2009, ほか)

④ 日本文化の残る町なみ(ブラジル, サンパウロ, 2006年撮影) サンパウロには、第二次世界大戦前から多くの日系人が住んでいるため、日本の商品や神社の鳥居など、日本のような町なみがみられる地域があります。

各国の人種・民族構成にはどのような特徴があるか考えてみましょう。

からも多くの人々が、おもに農業労働者としてブラジル、ペルー、ボリビアなどに移住しました。南アメリカでは、長い歴史の中で異なる民族間の混血が進み、多くの国では混血の住民が人口の3割をこえています。

南アメリカの独自の文化

ブラジルでは、毎年2月に各地でカーニバルが開かれます。カーニバルはもとヨーロッパの謝肉祭という宗教行事でしたが、アフリカ系の人々が加わることによって新しいカーニバルが生まれました。ここで使われるサンバのリズムは、アフリカ音楽をもとにしており、アフリカに起源をもつ楽器も使われています。また、アルゼンチンの舞踏音楽として知られるタンゴは、移民の多いブエノスアイレスの港町で始まったもので、ヨーロッパ、アフリカ、そして現地の音楽がまざり合って生まれたといわれます。

このように南アメリカでは、先住民、ヨーロッパ系、アフリカ系など、さまざまな人種や民族の伝統がまざり合って生まれた、独自の文化がみられます。



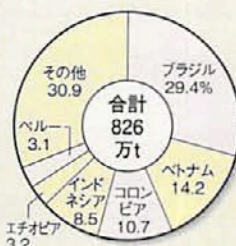
⑤ アルゼンチンタンゴ(アルゼンチン, ブエノスアイレス, 2001年撮影)

チェック&トライ

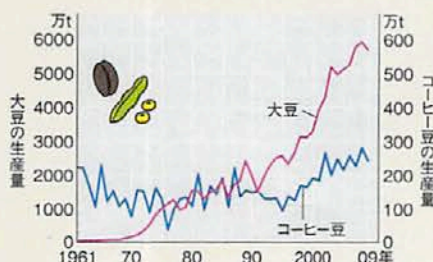
- ✓ 南アメリカには、先住民以外にどのような地域からやってきた人々の子孫が多いでしょうか。二つあげてみましょう。
- ✗ 南アメリカの文化には、植民地支配の影響によってどのような特徴がみられるか、アフリカや北アメリカの学習もふりかえてまとめてみましょう。



① コーヒー豆の収穫(ブラジル、ベレン近郊)
手作業での収穫のようすに着目しましょう。



② コーヒー豆の生産(2009年)
(FAOSTAT)



③ ブラジルのコーヒー豆と大豆の生産
(FAOSTAT)

サンパウロ州のコーヒー農場で働く人の話

ここは内陸部の高原で、朝夕の気温差が大きいことが、コーヒー栽培に適しているのよ。でも、冬に霜がおりて、コーヒーの木がかれてしまう年もあるからたいへんね。近年は、コーヒーから大豆やさとうきびの畑に変える農家もあるのよ。

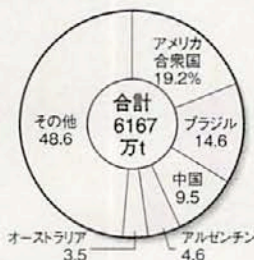


なぜ大豆の生産量が増えているのかな。



南アメリカの産業はどのように変化しているのか、栽培する作物や輸出品に着目して見ていきましょう。

おもにヨーロッパ系の地主が農地や牧場をもっており、現地の人々が労働者として家族とともに住みこみで働いています。



④ 牛肉の生産(2008年)
(FAOSTAT)

3 変化する農業と鉱工業

大農場での農業

ブラジルは、世界一のコーヒー生産国です。ここでは、19世紀の初めごろから、コーヒー

を栽培する大農場がひらかれ、先住民やアフリカからつれてこられた人々、さらにはヨーロッパからの移住者も働くようになりました。コーヒーは、北アメリカやヨーロッパをはじめとする外国に輸出するための重要な農産物になりました。

このような大農場における農業は、南アメリカのほかの国々にもみられます。アルゼンチンでは、パンパとよばれる大平原で、小麦の栽培や牛の放牧が行われており、ブラジルとともに、世界有数の牛肉生産国となっています。

コーヒーに依存しない農業へ

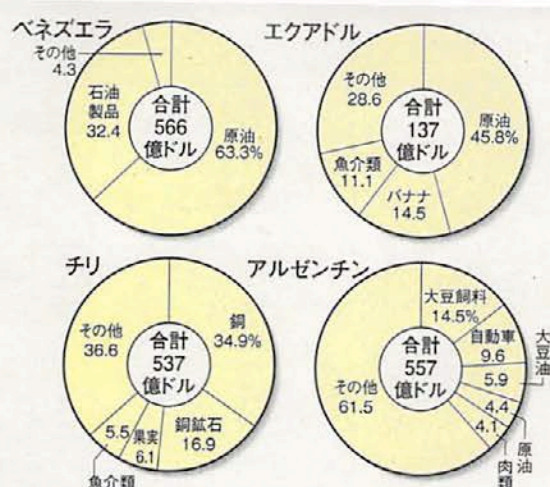
ブラジルの農業は、長い間コーヒーの輸出に依存してきました。しかし、天候

の影響で不作になったり、生産が多すぎて輸出価格が下がったりすると、国の経済が大きな打撃を受けます。そこで、コーヒーだけにたよらない農業を実現するために、複数の作物を生産することに力を入れるようになりました。その結果、大



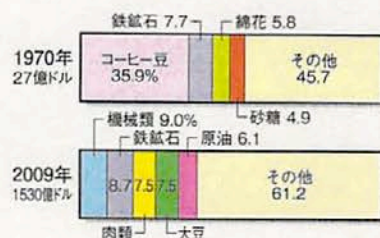
⑤南アメリカの植生と農業(ディルケアトラス 2008)

大豆はどのあたりで多くつくられているのでしょうか。



⑥おもな国の輸出品(2009年)〈UN comtrade〉

⑦ブラジルの輸出品の変化
〈UN comtrade, ほか〉



⑧豆やオレンジ、さとうきびの生産が増えています。

近年ではとくに、ブラジル高原やアルゼンチンのパンパなどで、大豆の生産が急増しています。これらの地域は降水量が少なく、これまであまり農業が行われてきませんでした。

しかし、栽培技術の進歩や新しい品種の開発により、大豆の大規模な栽培ができるようになりました。生産された大豆は、日本や中国、ヨーロッパなどへ輸出されています。



⑧ブラジルに進出した日本の自動車会社の工場(サンパウロ近郊, 2005年撮影)

例えば、ガソリンとバイオ燃料(→p.97)で走る自動車や小型ジェット機の開発などで、ブラジルは世界をリードしています。

チェック&トライ

- ✓ 南アメリカで生産が多い鉱産資源を三つあげてみましょう。
- ✗ ブラジルは、コーヒーの輸出に依存した経済から抜け出すためにどのようなふうをしてきたか、まとめてみましょう。

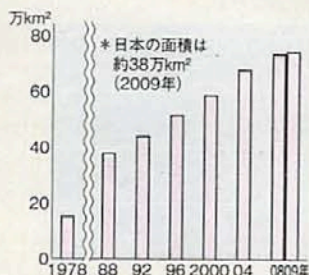
成長する鉱工業 南アメリカは鉱産資源にめぐまれています。ベネズエラの原油、ブラジルの鉄鉱石、チリの銅などは、その国の重要な輸出品となっています。それらの輸出のために鉄道や電力・通信などの施設が整備され、工業にも利用されるようになりました。

1950年代より、ブラジルとアルゼンチンでは、アメリカ合衆国や日本などの外国企業を受け入れて、鉄鋼や自動車などの重化学工業が発展しました。とくにブラジルは、現在、航空機産業やコンピュータ関連産業などの先端技術産業も発達し、経済が急速に成長している国として注目されています。



①熱帯林を切りひらいてつくられた製材所(ブラジル、ペレン近郊、2005年撮影) 写真奥に広がる伐採地は草地の状態になっています。一度森林を伐採すると、その土地をふたたび森林にもどすのはたいへん難しくなります。

②アマゾンの森林伐採面積の推移(INPE資料)



熱帯林の入植者の話

広大な熱帯林を開発すれば、私たちの生活も国も豊かになると思います。牧場や農地のほかに製材所もつくられ、村の人が働く場所もできました。生活のためには、さらに奥地を開墾することが必要なのです。



なぜ熱帯林の中に製材所がつくられたのかな。



アマゾンの熱帯林破壊の事例を通して、ブラジルの環境問題とその対策について調べてみましょう。

解説 焼畑農業

森林や草原を焼きはらい、その灰を肥料として作物を栽培する農業。数年たつと作物が育たなくなるため、別の場所に移動することになります。



③熱帯林を切りひらいてつくられた牧場(ブラジル、リオブランコ近郊、2007年撮影)

4 追究 ブラジルにみる環境問題と対策

南アメリカの学習を深めよう

世界の熱帯林のおよそ3分の1は、アマゾン川流域など南アメリカに集中しています。しかし、多様な生物がすむ熱帯林の面積は急速に減少しています。アマゾン川が流れるブラジルに着目して、なぜ熱帯林が減少しているのか、それにともなうどのような問題が起き、どのような対策がとられているのかをみていきましょう。

熱帯林破壊とその影響

アマゾン川流域は、長い間手つかずの自然が広がる土地でした。そこでは、先住民が採集や焼畑農業などの自給的な生活をおくってきました。

しかし、19世紀末になると、マナオスを中心にゴムの大農園がつくられるようになり、さらに20世紀後半には、熱帯林地域の大規模な開発が始まりました。アマゾン盆地を横断する大きな道路が建設されると、道路沿いの熱帯林が広い範囲で切り出され、木材は世界各国へ輸出されました。熱帯林を伐採したあと地は牧場や農地に変えられ、肉牛が飼育されたり、果実などの輸出用作物が栽培されたりしています。



④アマゾン川流域の開発地域と保全地域(ティルケアトラス 2008, ほか)
森林破壊が激しいのはどのような地域でしょうか。



⑤ガソリンスタンドで売られているバイオ燃料(ブラジル、サンパウロ、2005年撮影)

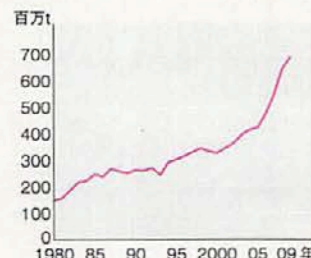
また、カラジャスの鉄鉱山を開発するために熱帯林が切りひ
られ、鉄鉱石を運ぶための鉄道もつくられました。近年は、
大豆畑を増やすことによって、広大な面積の熱帯林が伐採
されています。

5 このように熱帯林が大規模に失われると、二酸化炭素を吸
収する量が減少し、地球温暖化が進むのではないかと考えら
れています。また、貴重な動植物が絶滅したり、先住民の伝
統的な生活がおびやかされたりすることも心配されています。

熱帯林保全の 取り組みと新たな問題

10 さまざまな取り組みが行われています。熱帯林の一部は、国
立公園やユネスコの世界遺産などの保護地域に指定され、開
発が規制されるようになりました。また、耕作を行いながら
植林も進めるなど、熱帯林と先住民の生活を守るための国際
的な支援も活発になっています。

また、さとうきびを原料とするバイオ燃料の開発が進んで
いるブラジルでは、バイオ燃料を使って走る自動車が普及し
ており、二酸化炭素の排出量をおさえる取り組みとして注目さ
れています。しかし、さとうきび畑を増やすことが、新たな
熱帯林の伐採につながるかもしれないという心配もあります。



⑥ブラジルのさとうきびの生産の推移(FAOSTAT)

解説 バイオ燃料

とうもろこしやさとうきびなど、おもに植物を原料としてつくられる燃料です。大気中の二酸化炭素を吸収して光合成する植物を原料とするため、もやしても大気中の二酸化炭素が増加せず、環境にやさしいエネルギーとして注目されています。

チェック&トライ

- ✓ 熱帯林を保全するために、どのような取り組みが行われているか、本文から探してみよう。
- アマゾン川流域の開発を進めることの利点と問題点を、入植者と先住民、それぞれの立場に分かれて話し合ってみよう。

えんげん ねむ

塩原に眠る鉱産資源をめぐる動き

ボリビアのアンデス山脈の中に、ウユニ塩原があります。ウユニ塩原は、標高約3700mの高地にできた世界最大級の塩の平原です。塩原のまわりに住む人たちは、塩原からとれる塩を販売して生活してきました。

塩の層の下にある水には、大量のリチウムがふくまれています。リチウムは、携帯電話、パソコン、電気自動車などに使われる電池の原料で、現代の私たちの生活に欠かせない貴重な鉱産資源です。ウユニ塩原をはじめ、アンデス山脈には大規模な塩原が数か所あり、日本や欧米諸国の企業がリチウムの獲得に動いています。地元の人々は働く場所ができたことを喜ぶ一方で、いきすぎた開発によって、自然環境が破壊されないことを求めています。



① 白い塩が広がるウユニ塩原と塩の積み出し(ボリビア)



② リチウムを取り出す実験施設の建設

日本の底力

ブラジルにわたった日本人

現在、ブラジルには、約150万人の日系人がくらしています。日本からブラジルへの移住は1908年に始まりました。そのころの移住者は、サンパウロ州のコーヒー農園に住みこんで働きましたが、数万本ものコーヒーの木の手入れを、朝から晩まで行うきつい作業のうえ、賃金も安かったため、にげ出してしまう人もいました。その後、苦労を重ねて自分の土地を所有し、野菜や果樹の栽培、鶏の飼育などを始める人が出てきました。「小さな土地を最大限に活用し、新鮮な農産物を都市へ出荷する」という日本式の農業は、ブラジルでも大きな成功をおさめました。また、移住者の中には、都市へ移り住んで、飲食店などを始める人もいました。彼らの子孫である日系人は、ブラジルにある日本の企業や工場で働いたり、医者や弁護士になったりするなど、さまざまな分野で活躍しています。



③ ジャガイモをつくる日系ブラジル人農家の人(ブラジル、サンパウロ州)

④ スーパーの日本食売り場(ブラジル、ベレン) カップめんや菓子などの日本風の食品が売られていて、日系人も買いにやってきます。



駒澤大学名誉教授 中村 和 郎

帝京大学教授 谷内 達

著作者

兵庫教育大学教授 米田 豊
 駒澤大学教授 佐藤 哲夫
 茨城大学教授 村山 朝子
 日本女子大学教授 田部 俊充
 広島大学教授 由井 義通

上越教育大学准教授 志村 喬
 弘前大学教授 小岩 直人
 宮城教育大学准教授 吉田 剛
 大分大学准教授 永田 忠道

写真・資料提供

アーキテクト/愛知県農業総合試験場/會's NEXT 明天/アイランドヒルズ/朝日新聞社/旭山動物園/アフロ/アマナイメーجز/EPA=時事/石川武志/今井町並み保存会/Imaginechina/PANA/いろどり/岩手県/上野村/内田宏/雲仙岳災害記念館/エアバス社/AFP=時事/NTTドコモ/愛媛県観光協会/愛媛県漁業協同組合連合会/OADIS/(財)淡海環境保全財団/大泉町/大阪府/OPO/大山千枚田保存会/岡崎藩/小笠原/尾鷲市/香川県医師会/東屋市/川場村/祇園祭山鉾連合会/気象庁/北九州市/九州沖縄農業研究センター/共同通信社/京都市/近代航空/久保純子/Clear Light Image Products/栗原克己/黒石観光協会/(独)建築研究所/高野ふれあいの家天狗荘/高知新聞社/GO GO TOURS PTY LTD/国際環境技術移転研究センター/国土交通省/こけしの菅原屋/小坂製鏡/佐賀県/鯖江市/澤井余志郎/JA伊達みらい/JAXA/JTB情報システム/JTBフォト/滋賀県/滋賀県琵琶湖環境科学センター/時事通信社/矢野清孝/JICA/©JARRIER, ANTOINE (ルイ・ヴィトンジャパン)/上越市安塚区/昭文社/水産航空/積水化学工業/瀬戸内市教育委員会/高根務/中央ジオマチック/中国新聞社/津山市/dpa/PANA/伝統工芸高岡銅器振興協同組合/東海大学情報技術センター/東京都建設局/豊岡市/トヨタ自動車/トヨタ自動車九州/NASA/日本特殊陶業/日本ポリグル/日本経済新聞社/日本地図センター/日本農業新聞/日本離島センター/ノアノア/芳賀ライブラリー/島山重雄/八王子市/PANA/PANA=朝日航洋/春採アイヌ古式舞踊館リムセ保存会/BHP Billiton/PPS通信社/日立製作所/兵庫県/広河隆一/広島平和記念資料館/特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン/(社)福井県眼鏡協会/福岡県/別府市の池地獄/北海道大学附属図書館/北海道とんこブラザ/北海道美瑛市/ボプラ社/本田技研工業/毎日新聞社/水田孝/三菱重工業/三星ダイヤモンド工業/水俣市/宮崎県/宮崎市/八木百合子/山口県/山田真美/山中和/山梨県立博物館/雪だるま財団/湯沢高原アルプの里/ユニフォプレス/吉田睦/吉田忠正/読売新聞社/琉球漆器事業協同組合/ライター/アフロ/和歌山県/渡辺一夫

地形図および地勢図

本書に掲載した地形図および地勢図は、国土地理院発行の2.5万分の1, 5万分の1の地形図, 20万分の1の地勢図を使用したものである。

社会科 中学生の地理
世界のすがたと日本の国土

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
 (上記の定価は、各教科書取次供給所に表示します。)

平成23年3月30日 文部科学省 検定済
 平成24年1月10日 印刷
 平成24年1月20日 発行

46	地理 - 723
帝国	

著 作 者 中村和郎 谷内 達
 米田 豊 佐藤哲夫 村山朝子 田部俊充
 由井義通 志村 喬 小岩直人 吉田 剛
 永田忠道

発 行 者 株式会社 帝国書院 東京都千代田区神田神保町3の29
 代表者 斎藤 正義

印 刷 者 株式会社 加藤文明社 東京都千代田区三崎町2の15の6
 代表者 加藤 純男

発 行 所 株式会社 帝国書院 振替口座 00180-7-67014 番
 電話 東京 03(3262) 0830, 0831